

各関係機関・団体長 様

愛媛県病害虫防除所長

病害虫防除技術情報（第 3 号）の送付について

このことについて、次のとおりお知らせしますので、御参照の上、防除指導方よろしくお願ひいたします。

記

1 情報の内容 **今後の麦類（はだか麦、小麦）の病害対策について**

2 発生の現状と気象予報

- (1) 赤かび病は、はだか麦において低率ながら 4 月第 3 半旬に発病粒を確認した（変色粒のある穂を高湿条件で管理後、赤色色素産生菌の発生により判定）。また、本菌の子のう胞子の飛散量は一時的に多くなっている（表 1）。
- (2) 株腐病の発生は、前年の発生ほ場を中心に確認された。
- (3) 裸黒穂病は、出穂期(3 月下旬)に発病穂の目立つほ場があり、前年よりも増加している。
- (4) 黒節病の発生は、確認していない。
- (5) 1 か月予報（4 月 14 日 高松气象台発表、4 月 16 日～5 月 15 日）では、気温は高く降水量は多い見込みであることから、裸黒穂病を除き発病には助長的である。特に、4 月 17 日の週間天気予報では 4 月 21 日から数日は天候不順と気温がかなり高いと予想されており、発病に助長的である。

3 防除上の注意

- (1) 赤かび病は、乳熟期の高温・多雨条件(平均気温 18℃以上、湿度 80%以上が 3 日以上続く場合)で発病程度が高まるので開花期防除を実施しているほ場でも、天候によっては 2 回目の防除が必要となる。追加防除の時期は、開花期防除から 7～10 日後又は出穂 25 日後頃までが有効である。
- (2) 赤かび病は、発病程度が高まるとかび毒(DON 等)の汚染が危惧されるため、防除を行っていないほ場では早急に防除を実施する。追加防除では、かび毒含有量の低減効果が高いワークアップ剤、シルバキュア剤等を使用する。なお、トップジン M 剤は、はだか麦では出穂期以降は 1 回しか使用できないため、開花期に散布したほ場では使用しない。
- (3) 赤かび病の発生ほ場では、収穫遅れや倒伏によりかび毒含有量が高まるので、適期の収穫と速やかな乾燥に努め、倒伏したほ場の収穫物は分別して被害麦の混入をさける。
- (4) 赤かび病、株腐病は高温多湿条件で発病が助長されるため、多雨時には排水路の整備を行い長時間の滞水しないよう排水対策を行う。
- (5) 黒節病、裸黒穂病は種子伝染するため、発病ほ場での採種は行わない。

表 1 麦類赤かび病菌の子のう胞子飛散状況

		3 月			4 月		
		第 4 半旬	第 5 半旬	第 6 半旬	第 1 半旬	第 2 半旬	第 3 半旬
松山市上難波	平成 28 年	60	25	20	107	59	43
	平 年	26.9	23.0	39.2	24.5	25.2	35.5
西条市丹原	平成 28 年	13	7	7	23	75	35
	平 年	15.8	15.4	17.7	24.1	29.8	39.2

(単位：かゞーガラス 1.8cm×1.8cm×2 枚分の胞子個数)、注) 明日山考案による胞子採集器を麦栽培圃場内に設置。平年値は平成 18～27 年の平均値。西条市は 18 年～19 年は小松町、20 年～27 年は丹原町設置。

◎子のう胞子飛散状況は病害虫防除所ホームページの「調査データ」にて随時更新しています。